

Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment

クイック・インストレーションおよび構成ガイド

リリース 2 (9.0.4.1)

2003 年 10 月

部品番号 : J08138-01

ORACLE®

Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment クイック・インストールレーションおよび構成ガイド, リリース 2 (9.0.4.1)

部品番号 : J08138-01

原本名 : Oracle Collaboration Suite Quick Installation Guide, Release 2 (9.0.4.1) for hp-ux PA-RISC (64-bit), Linux x86, and Solaris Operating Environment (SPARC 32-bit)

原本部品番号 : B10885-02

Copyright © 2003, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
1 前提条件の確認	
2 Oracle9/AS Infrastructure のインストール	
3 Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール	
4 Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール	
Oracle Email のインストール	4-8
Oracle Collaboration Suite 統合 Web Client のインストール	4-9
コマンドラインを使用した Web Client のインストーラの起動	4-10
Web Client のコマンドライン・インストーラの実行	4-11

はじめに

このマニュアルでは、最も一般的な構成シナリオを使用して、Oracle Collaboration Suite の基本的なインストール方法について説明します。

関連資料： インストールおよび構成に関する詳細は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

このマニュアルでは、Oracle9iAS Infrastructure、Oracle Collaboration Suite Information Storage および Oracle Collaboration Suite Middle-Tier が別のコンピュータにインストールされることを前提としています。

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- [前提条件の確認](#)
- [Oracle9iAS Infrastructure のインストール](#)
- [Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール](#)
- [Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール](#)

前提条件の確認

インストールを開始する前に次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- ORACLE_HOME、TMP および swap ディレクトリのためのディスク領域の要件を満たしていること
- 特定のプラットフォーム用にシステム・カーネル・パラメータを構成してあること
- オペレーティング・システムのパッチを適用していること

関連資料：『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』

- ディスク領域の要件およびシステム・カーネル・パラメータ設定については、第2章「インストールの準備」を参照してください。
- 前提条件確認のリストについては、第5章「インストールの開始」を参照してください。

注意： Red Hat Linux Advanced Server 2.1 システムでは、/etc/hosts ファイル内のエントリが次の形式で構成されているかを、インストールを開始する前に確認してください。必要な場合は、エントリを変更してください。

```
127.0.0.1 localhost.localdomain localhost
ip_address hostname.domain_name hostname
other_aliases_for_the_hostname
```

Oracle9iAS Infrastructure のインストール

この章では、Oracle9iAS Infrastructure のインストール方法について説明します。

注意： 業界標準の LDAP ポートは、非 SSL の場合は 389、SSL の場合は 636 です。これらのポートが `/etc/services` ファイルにリストされていない場合、Oracle Universal Installer により Oracle Internet Directory ポートとして使用されます。これらのポートが `/etc/services` ファイルにリストされている場合、Oracle Universal Installer ではポート 4031 ～ 4039 を連続して Oracle Internet Directory ポートとして試行します。

標準のポート 389 または 636 を使用するには、構成を開始する前に `/etc/services` ファイルからこれらのポート番号を含む行を削除する必要があります。これらの行をコメント・アウトするだけでは十分ではありません。削除する必要があります。

現在ポート 389 または 636 で LDAP サーバーが稼働している場合、構成する前にサーバーを停止してください。

Oracle9iAS Infrastructure をインストールするには、次のようにします。

1. Oracle9iAS Infrastructure の CD-ROM を挿入します。
2. 次のコマンドを使用して Oracle Universal Installer を起動します。
`$cd_mount_point_directoryocs_infr_cdl/runInstaller`
3. 「ようこそ」画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

注意： `oraInst.loc` ファイルが存在する場合、手順 4 ～ 7 は表示されません。

-
4. インストールのためのインベントリ・ディレクトリ・パスを確認するか、「参照」をクリックしてリセットします。「OK」をクリックすると、「UNIX グループ名」画面が表示されます。
 5. DBA を入力するか、oinstall グループ名を使用して、「次へ」をクリックします。

関連資料： グループ名の作成の詳細は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』の第2章「インストールの準備」を参照してください。

6. Oracle を最初にインストールする場合は、root として新しいターミナル・ウィンドウを開き、ダイアログ・ボックスで指定したディレクトリから orainstRoot.sh を実行することを要求されます。
7. orainstRoot.sh の完了後、Oracle Universal Installer に戻り、「続行」をクリックすると、「ファイルの場所の指定」画面が表示されます。
8. 「ファイルの場所の指定」画面では、次のことを行います。
 - 「ソース」セクションで、デフォルトのパスを受け入れます。
 - 「インストール先」セクションで、Oracle ホームの「名前」および完全な「パス」を入力します。
9. 「次へ」をクリックすると、「言語の選択」画面が表示されます。
10. Oracle Collaboration Suite でサポートされている言語から、使用する言語を選択します。「次へ」をクリックします。

注意：

- ここで選択した言語により、ユーザーはインストールした Oracle Collaboration Suite に母国語でアクセスできます。ただし、その言語が Oracle Collaboration Suite でサポートされていることが条件になります。
 - サポートする言語は、インストールの完了後は追加できません。その他の言語を追加するには、Oracle Collaboration Suite を完全に再インストールする必要があります。
-

11. 「次へ」をクリックすると、「インストールの要件確認」画面が表示されます。
12. 「次へ」をクリックすると、「構成オプションの選択」画面が表示されます。
13. 「デフォルト」を選択し、「次へ」をクリックすると、「インスタンス名および ias_admin パスワードの作成」画面が表示されます。

-
14. 「インスタンス名」を選択し、「ias_admin パスワード」を選択および確認します。

注意：

- 「インスタンス名」はデータベース・インスタンス名ではなく、Oracle9iAS Infrastructure インスタンスの名前です。
 - ここで選択した「ias_admin パスワード」は、Oracle9iAS Infrastructure の Oracle Internet Directory 管理者用のパスワードにもなります。
-

「次へ」をクリックすると、「Guest アカountのパスワード」画面が表示されます。

15. ゲスト・ユーザー・アカウントを入力および確認します。
16. 「次へ」をクリックします。DBA グループのメンバーの場合、「サマリー」画面が表示されます。手順 19 に進んでください。
- DBA グループのメンバーではない場合、「権限付きオペレーティング・システム・グループ」画面が表示されます。
17. 「データベース管理者 (OSDBA) グループ」および「データベース・オペレータ (OSOPER) グループ」の名前を入力します。
18. 「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
19. 情報を確認し、「インストール」をクリックします。インストールのためのログ・ファイルの場所が表示されます。

「インストール」をクリックした後、ファイルはコピーおよびリンクされます。このプロセスの実行には 1 時間以上かかります。

20. 要求された際、root.sh を実行します。別のターミナル・ウィンドウからこれを root として実行する必要があります。root.sh の完了後、Oracle Universal Installer に戻り、「OK」をクリックすると、「Configuration Assistant」画面が表示されます。

Oracle9iAS Infrastructure の構成ツールのステータスを確認します。

Oracle Universal Installer により、「構成オプションの選択」画面で選択した各コンポーネントに対する Configuration Assistant が実行されます。

21. 「インストールの終了」画面では、インストール用のポート番号が表示され、正常に終了したことが確認されます。
22. インストール・エラーがないか、インストール・ログ・ファイルを確認します。インストール・ログ・ファイルは、このインストールの最初に指定したディレクトリにあります。デフォルトのインストール・ログ・ファイルのディレクトリは、oraInventory_directory/logs です。

各インストール・ログの形式は、InstallActionsYYYY-MM-DD_HH-MM-SSAM.log のようになります。

注意：

- /tmp ディレクトリでは、ディレクトリの形式は OraInstallYYYY-MM-DD_HH-MM-SSAM.log のようになります。installCluster.log ファイルには、どのインストール・モジュールが現在実行されているかが表示されます。
 - ポートのリストは、\$ORACLE_HOME/install ディレクトリの portlist.ini ファイルにあります。
-
-

Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール

この章では、Oracle Collaboration Suite Information Storage のインストール方法について説明します。

注意： Oracle Collaboration Suite Information Storage は、別個のコンピュータにインストールできます。このマニュアルでは、1 つの Oracle Collaboration Suite Information Storage が使用されていることを前提としています。

Oracle Collaboration Suite Information Storage をインストールするには、次のようにします。

1. Oracle Collaboration Suite Information Storage の CD-ROM を挿入します。
2. 次のコマンドを使用して Oracle Universal Installer を起動します。
`$cd_mount_point_directoryocs_stor_cd1/runInstaller`
3. 「ようこそ」画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

注意： oraInst.loc ファイルが存在する場合、手順 4 ～ 7 は表示されません。

4. インストールのためのインベントリ・ディレクトリ・パスを確認するか、「参照」をクリックしてリセットします。「OK」をクリックすると、「UNIX グループ名」画面が表示されます。

-
5. dba を入力するか、oinstall グループ名を使用して、「次へ」をクリックします。

関連資料： グループ名の作成の詳細は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』の第2章「インストールの準備」を参照してください。

6. Oracle を最初にインストールする場合は、root として新しいターミナル・ウィンドウを開き、ダイアログ・ボックスで指定したディレクトリから oraInstRoot.sh を実行することを要求されます。
7. oraInstRoot.sh の完了後、Oracle Universal Installer に戻り、「続行」をクリックすると、「ファイルの場所の指定」画面が表示されます。
8. 「ファイルの場所の指定」画面では、次のことを行います。
 - 「ソース」セクションで、デフォルトのパスを受け入れます。
 - 「インストール先」セクションで、Oracle ホームの「名前」および完全な「パス」を入力します。
9. 「次へ」をクリックすると、「言語の選択」画面が表示されます。
10. Oracle Collaboration Suite でサポートされている言語から、使用する言語を選択します。「次へ」をクリックします。
11. 「次へ」をクリックすると、「データベースの作成」画面が表示されます。
12. 「はい」を選択すると新規の Oracle9i データベースが作成され、「次へ」をクリックすると「Information Storage の登録」画面が表示されます。
13. 完全修飾された「ホスト」名、「ポート」、「ユーザー名」（Oracle Universal Installer ではデフォルトで cn=orcladmin が表示される）および「パスワード」を入力します。「次へ」をクリックすると、「データベースの識別」画面が表示されます。
14. 「グローバル・データベース名」および「SID」を入力します。必要な場合、デフォルトの SID を変更します。
15. 「次へ」をクリックすると、「データベース・ファイルの場所」画面が表示されます。
16. デフォルトを受け入れ、「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
17. 必要な場合は、エントリを確認し、変更してください。「インストール」をクリックしてエントリを受け入れ、インストールを開始します。

注意：「インストール」をクリックした後、ファイルはコピーおよびリンクされます。このプロセスの実行には1時間以上かかります。

-
18. 要求された際、別のターミナル・ウィンドウの root アカウントから `root.sh` を実行します。`root.sh` の実行中、「セットアップ権限」画面が表示され、インストールの進行状況が示されます。
 19. `root.sh` の完了後、Oracle Universal Installer に戻り、「**次へ**」をクリックすると、「Configuration Assistant」画面が表示されます。
 20. Database Configuration Assistant で要求された場合、SYS および SYSTEM アカウント・パスワードを選択して確認します。「**OK**」をクリックします。
 21. 「インストールの終了」画面が表示されたら、「**終了**」をクリックします。

Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール

この章では、すべてのコンポーネントがインストールされていることを前提とし、Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール方法について説明します。

注意： この章では、Oracle9iAS Infrastructure（Oracle Internet Directory、Oracle9iAS Single Sign-On および Oracle9iAS Metadata Repository）および Oracle Collaboration Suite Information Storage がすべてインストールされていることを前提とします。

関連資料： Oracle9iAS Infrastructure の配置に関する考慮事項は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

注意： Oracle9iAS Wireless には、インストール後に構成する必要がある組込みアプリケーションが含まれています。使用する前に、基礎となる Oracle9iAS Wireless スタック、次にそのアプリケーションを構成する必要があります。これらアプリケーションおよびその他の Oracle9iAS Wireless コンポーネントの構成の詳細は、『Oracle9iAS Wireless 管理者ガイド』を参照してください。

Oracle Collaboration Suite のアプリケーションは、中間層に置かれます。Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール・プロセス中、ほとんどのアプリケーションは自動的にインストールされます。いくつかのアプリケーションについては、正常にインストールするために入力が必要です。

この章では、Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストールの開始方法について説明します。

1. Oracle Collaboration Suite の CD-ROM を挿入します。
2. 次のコマンドを使用して Oracle Universal Installer を起動します。

```
$cd_mount_point_directoryocs_mt_cd1/runInstaller
```

3. 「ようこそ」画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

注意： oraInst.loc ファイルが存在する場合、手順 4～7 は表示されません。

4. インストールのためのインベントリ・ディレクトリ・パスを確認するか、「参照」をクリックしてリセットします。「OK」をクリックすると、「UNIX グループ名」画面が表示されます。
5. dba を入力するか、oinstall グループ名を使用して、「次へ」をクリックします。

関連資料： グループ名の作成の詳細は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』の第 2 章「インストールの準備」を参照してください。

6. Oracle を最初にインストールする場合は、root として新しいターミナル・ウィンドウを開き、ダイアログ・ボックスで指定したディレクトリから oraInstRoot.sh を実行することを要求されます。
7. oraInstRoot.sh の完了後、Oracle Universal Installer に戻り、「続行」をクリックすると、「ファイルの場所の指定」画面が表示されます。
8. 「ファイルの場所の指定」画面では、次のことを行います。
 - 「ソース」セクションで、デフォルトのパスを受け入れます。
 - 「インストール先」セクションで、Oracle ホームの「名前」および完全な「パス」を入力します。
9. 「次へ」をクリックすると、「言語の選択」画面が表示されます。
10. Oracle Collaboration Suite でサポートされている言語から、使用する言語を選択します。「次へ」をクリックします。
11. インストール前の要件を確認し、「次へ」をクリックすると、「コンポーネントの構成」画面が表示されます。

-
12. インストールするコンポーネントを選択し、「次へ」をクリックします。Oracle Calendar Web Client、Sync Server および Web Services は、「**Oracle Calendar アプリケーション・システム**」を選択していない場合、インストールできないことに注意してください。Oracle Calendar は次の場所にインストールされます。

コンポーネント	場所
Server	\$ORACLE_HOME/ocal/
Administrator	\$ORACLE_HOME/ocad/
アプリケーション・システム	\$ORACLE_HOME/ocas/

注意： Oracle Calendar Server のみをインストールするには、次のようにします。

1. 「Oracle Calendar アプリケーション・システム」のかわりに「Oracle Calendar Server」を選択します。
2. その結果、クライアントのホストおよびポートが要求されます。値がわからない場合、一時値を入力し、後でサーバーの unison.ini ファイルを次のように編集することもできます。

```
[RESOURCE_APPROVAL]
url=http://host_name:port_number/ocas-bin/ocas.fcgi
```

Oracle Calendar アプリケーション・システムのみをインストールするには、次のようにします。

1. 「Oracle Calendar Server」のかわりに「Oracle Calendar アプリケーション・システム」を選択します。
2. その結果、Oracle Calendar Server のホスト、ポートおよびノード ID が要求されます。値がわからない場合、一時値を入力し、後でアプリケーション・システムの ocas.conf ファイルを次のように適切な値に編集することもできます。

```
[CONNECTION]
nnode=host_name:engine_port,node
```

-
13. 「次へ」をクリックすると、「既存の Oracle9iAS Single Sign-On」画面が表示されます。
14. Oracle9iAS Single Sign-On の既存のインスタンスのホスト名およびポート番号を入力し、「次へ」をクリックすると、「Oracle Internet Directory」画面が表示されます。
15. Oracle Internet Directory の既存のインスタンスの管理者のユーザー名およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックすると、「管理パスワードおよびインスタンス名の指定」画面が表示されます。

-
16. 「インスタンス名」を選択し、「管理用パスワード」を選択および確認します。

注意：

- 「インスタンス名」は、データベースのインスタンス名ではなく、Middle-Tier インスタンスのインストールのための名前です。
 - ここで選択した「管理用パスワード」は、Middle-Tier 用の Oracle Enterprise Manager 管理者のパスワードにもなります。
-

Oracle Web Conferencing のインストール

17. 「次へ」をクリックすると、「Oracle Real-Time Collaboration リポジトリの位置」画面が表示されます。すべてのフィールドに必要な情報を入力してください。

18. 「次へ」をクリックすると、「Oracle Real-Time Collaboration リポジトリの詳細」画面が表示されます。使用しているデータベースによって、要求される情報は異なります。

Oracle Collaboration Suite Information Storage データベースを使用している場合、スキーマのパスワードをリセットしてください。

19. 情報を入力した後、「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar のデフォルトのタイムゾーン」画面が表示されます。

関連資料： Oracle Web Conferencing の Document Conversion Server および Voice Conversion Server のインストールの詳細は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』の第2章「Oracle Collaboration Suite のインストール」を参照してください。

Oracle Calendar Server および Oracle Calendar アプリケーション・システムのインストール

注意： コンピュータのカーネル・パラメータの値が Oracle Calendar Server の実行に十分でない場合、変更する必要があるパラメータについて説明する情報ダイアログ・ボックスが開きます。必要な変更を行って、コンピュータを再起動し、インストールを再開します。必須のカーネル・パラメータの計算の詳細は、『Oracle Calendar 管理者ガイド』の付録 B「カレンダー・カーネル・パラメータの調整」を参照してください。

20. 新しい Oracle Calendar ユーザーのデフォルトのタイムゾーンを選択します。「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar のノード ID」画面が表示されます。

-
21. Oracle Calendar のノードに 1 ～ 49999 の間の一意の数値 ID を指定します。「次へ」をクリックすると、「Oracle Calendar のマスター・ノード」画面が表示されます。
 22. Oracle Calendar Server を初めてインストールする場合、「Oracle Calendar のマスター・ノード」画面で「はい」を選択し、現行のインストールをマスター・ノードにします。Web Services および Sync Server を機能させるには、ネットワークにマスター・ノードが 1 つ必要です。「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
 23. インストールの設定を確認します。変更が必要な場合、「戻る」をクリックします。「次へ」をクリックすると、「インストール」画面が表示されます。
インストールの進捗状況が、この画面の進捗バーに表示されます。
 24. 要求された際、`root.sh` を実行します。別のターミナル・ウィンドウからこれを `root` として実行する必要があります。`root.sh` の完了後、`root` としてログオフし、「OK」をクリックすると、「Configuration Assistant」画面が表示されます。
各コンポーネントの Configuration Assistant が自動的に起動します。Configuration Assistant の起動に失敗した場合、失敗の原因がウィンドウに表示されます。失敗の原因を修正し、「再試行」をクリックします。
 25. Oracle Net Configuration Assistant の「ようこそ」画面が表示されたら、「標準インストールの実行」を選択します。「次へ」をクリックすると、「Configuration Assistant」画面が表示されます。

Oracle Files の構成

中間層への Oracle Files のインストールを完了するには、次の手順を実行します。

注意： 構成プロセスには 1 時間以上かかります。

関連資料： 推奨される構成前タスクおよび必須の構成後タスクなどの詳細な Oracle Files 構成情報は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

26. Oracle Files Configuration Assistant の「ようこそ」画面で、「次へ」をクリックすると、「ドメイン操作」画面が表示されます。
27. 「新規 Oracle Files ドメインの作成」を選択し、「次へ」をクリックすると、「データベースの選択」画面が表示されます。

-
28. Oracle Collaboration Suite Information Storage の「データベース・ホスト名」、「リスナー・ポート番号」、「データベース・サービス名」および「データベース・ユーザー SYS のパスワード」を入力します。「次へ」をクリックします。「データベース・ログインの検証」ウィンドウが終了すると、「スキーマ名」画面が表示されます。

29. スキーマ名を入力し、ファイルのインストール用のパスワードを入力および確認して、「次へ」をクリックすると、「表領域」画面が表示されます。

Configuration Assistant によって、このスキーマ名がデータベースに存在するかどうかを確認されます。存在する場合、またはこのスキーマ名に基づく関連するスキーマ名が存在する場合、詳細な説明を求めるメッセージ・ボックスが表示されます。

「スキーマ名」画面に戻り、スキーマの新しい名前を入力するには、メッセージ・ボックスで「いいえ」をクリックします。

このスキーマおよびすべての関連オブジェクトをデータベースから削除し、新しいスキーマを作成するには、「はい」をクリックします。

注意： このスキーマおよびすべての関連オブジェクトをデータベースから削除し、新しいスキーマを作成する場合以外は、「はい」をクリックしないでください。

30. 次のいずれかのオプションを選択します。

- Oracle Files のコンテンツ用にカスタム表領域を作成していない場合、「すべての Oracle Files データに USERS 表領域を使用」を選択
- Oracle Files のコンテンツ専用に表領域を作成した場合、「各データ・タイプの表領域を指定」を選択し、ドロップダウン・リストから各コンテンツ・タイプに使用する表領域を選択

「次へ」をクリックすると、「キャラクタ・セットおよび言語」画面が表示されます。

31. Oracle Files にドキュメントを格納する際に使用するデフォルトのキャラクタ・セットおよび索引付け言語を選択します。キャラクタ・セットは、Oracle Files ドメインのほとんどのユーザーが使用するキャラクタ・セットに設定することをお勧めします。「次へ」をクリックすると、「デフォルトのポート番号」画面が表示されます。

32. ポート番号を変更するか、デフォルトを受け入れ、「次へ」をクリックすると、「Web サイト情報」画面が表示されます。

33. 「HTTP ホスト名」および「HTTP ポート」を入力し、「SSL の使用」（コンピュータに SSL を構成した場合のみこのボックスを選択）します。「次へ」をクリックすると、「SMTP 情報」画面が表示されます。

34. 電子メール・サーバー情報を入力します。これは、有効な SMTP サーバー名である必要があります。「次へ」をクリックすると、「管理者情報」画面が表示されます。

-
35. 通知およびその他のメッセージを Oracle Files の `site_admin` ユーザーに送信するために使用する完全修飾された電子メール・アドレスを入力します。「次へ」をクリックすると、「ユーザー」画面が表示されます。
 36. 各デフォルト・ユーザーにパスワードを割り当てます。`site_admin` ユーザーは、Oracle Files サブスクリバの作成、および構成後に必要です。「次へ」をクリックすると、「OiD ログイン」画面が表示されます。
 37. 資格証明の管理に使用する、「サーバー」、「ポート」、「スーパー・ユーザー」、「スーパー・ユーザー・パスワード」および「ルート Oracle コンテキスト」などの Oracle Internet Directory インスタンスのログイン情報を入力します。「次へ」をクリックすると、「ローカル・マシンの設定」画面が表示されます。
 38. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - Oracle Files スキーマを作成し、ドメイン・コントローラ、ノードまたは HTTP ノードを実行するためにこのホストを構成する場合、「はい」
 - このホストを構成せずに新しいスキーマを作成する場合、「いいえ」「次へ」をクリックすると、「ドメインのコンポーネント」画面が表示されます。
 39. Oracle Files に使用する完全修飾されたホスト名を入力し、「このコンピュータでドメイン・コントローラを実行」、およびドメインのために構成するその他すべてのプロセスを選択します。「次へ」をクリックすると、「ノード構成」画面が表示されます。
 40. ノード名を入力し、プロトコル・サーバーおよびエージェントを必要に応じて構成します。「ノード名」は、ノードを識別する名前です。「Oracle Files エージェントを実行」により、すべての Oracle Files システム・エージェントがこのコンピュータ上で実行されるように構成されます。「プロトコル・サーバーを実行」により、Oracle Files プロトコル・サーバーがこのコンピュータ上で実行されるように構成されます。
 41. 「ドメインのコンポーネント」画面で「このコンピュータで HTTP ノードを実行」を選択した場合、「次へ」をクリックすると「HTTP ノードの設定」画面が表示されます。それ以外の場合、「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
 42. HTTP ノードの名前を入力します。「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
 43. 「構成」をクリックして続行します。プロセスが完了すると、Oracle Files の構成が正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを閉じます。

Middle-Tier のインストールの完了

44. Oracle Files Configuration Assistant の構成が完了すると、「Configuration Assistant」画面が表示されます。「次へ」をクリックすると、「インストールの終了」画面が表示されます。
45. 「インストールの終了」画面に表示された情報を書きとめておいてください。
46. 「終了」をクリックしてインストールを終了します。

Oracle Email のインストール

中間層への Oracle Email のインストールを完了するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーション・サーバーにある `umconfig.sh` スクリプトを実行します。
「Unified Messaging の構成」画面が表示されます。
2. 「メール・ストアのデータベース構成」を選択し、「次へ」をクリックすると、「メール・ストアのデータベース構成」画面が表示されます。
3. 完全修飾された「データベース・ホスト名」、「SID」、「ポート番号」および「SYSTEM パスワード」を入力します。「次へ」をクリックすると、「CTXSYS パスワード」画面が表示されます。
4. Oracle Text アカウントのパスワードを入力し、「次へ」をクリックすると、「ES_MAIL のパスワード」画面が表示されます。
5. ES_MAIL パスワードを入力し、確認します。「次へ」をクリックすると、「UMADMIN のパスワード」画面が表示されます。
6. UMADMIN パスワードを入力し、確認します。「次へ」をクリックすると、「Unified Messaging ドメイン」画面が表示されます。
7. ユーザーの電子メール・アドレスに使用するドメイン名を入力します。

注意： ドメイン名を誤って入力した場合、誤ったドメインが作成されます。
このような場合、次のコマンドを実行してドメインを修正します。

```
$ORACLE_HOME/oes/bin/install_createdomain.sh UM_SYSTEM  
domain_name
```

8. 「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。
9. 「次へ」をクリックすると、Email Store Information がインストールおよび構成されます。
10. 「インストールの終了」画面が表示されたら、「終了」をクリックして「メール・ストアのデータベース構成」画面を閉じます。

11. アプリケーション・サーバーにある `umconfig.sh` スクリプトを実行します。
12. 「中間層の構成」を選択し、「次へ」をクリックすると、「メール・ストア・データベース」画面が表示されます。
13. Email Store Information をインストールしたデータベースをドロップダウン・リストから選択します。「次へ」をクリックすると、「SMTP および List Server 用のローカル・ドメイン」画面が表示されます。
14. ドメインを入力し、「次へ」をクリックすると、「プロセスの開始」画面が表示されます。
15. 「はい」を選択し、「次へ」をクリックすると、「サマリー」画面が表示されます。

注意： 電子メール・プロセス・パラメータの詳細な構成をするために「いいえ」を選択した場合、『Oracle Email 管理者ガイド』の第 3 章に記載されている概略で示すように、プロセスを再度開始できます。

16. 「インストール」をクリックします。

関連資料： Oracle Voicemail & Fax のインストールに関する情報は、『Oracle Collaboration Suite for HP-UX PA-RISC, Linux x86, and Solaris Operating Environment インストールेशनおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle Collaboration Suite 統合 Web Client のインストール

Oracle Collaboration Suite では、ブラウザ対応コンピュータ用の統合 Web Client が提供されます。基礎となる Oracle9i Application Server を使用して、安全なシングル・サインオン環境を提供します。統合 Web Client は、メッセージ（電子メール、ボイスメール、FAX）、カレンダー、ディレクトリ情報、Oracle Web Conferencing 機能、および Oracle Files に格納されているコンテンツにアクセスするために使用できます。

デフォルトでは、Web Client は Oracle Collaboration Suite のインストールの際、コンポーネントの構成中に自動的に統合されます。インストール中に Web Client の選択を解除する場合は、Web Client のインストーラを実行する必要があります。

Web Client のインストーラでは次のタスクが実行されます。

- Oracle Collaboration Suite ホーム・ページのインストール
- インストールした Oracle Collaboration Suite のコンポーネントに対する Web プロバイダおよびポートレットの追加
- Oracle Collaboration Suite ユーザーに対して Oracle Collaboration Suite ホーム・ページをデフォルトの Web ページとして設定

- カスタマイズされた権限を Oracle Collaboration Suite ホーム・ページのユーザーに付与

新しい Oracle Collaboration Suite コンポーネントをインストールする場合は、Web Client のインストーラを実行して、Oracle Collaboration Suite ホーム・ページでコンポーネントを使用できるようにすることができます。Web Client のインストーラは次の Oracle Collaboration Suite コンポーネントに対してのみ使用できます。

- Oracle Calendar
- Oracle Email
- Oracle Files
- Oracle Web Conferencing
- Oracle9iAS Wireless
- Oracle Ultra Search

次のいずれかの方法で Web Client のインストーラを起動できます。

- Oracle Universal Installer を使用
- コマンドラインを使用

コマンドラインを使用した Web Client のインストーラの起動

Oracle Collaboration Suite をインストールする場合、すべてではなく選択したコンポーネントをインストールすることができます。追加のコンポーネントを後でインストールして、Oracle Collaboration Suite ホーム・ページでコンポーネントを使用できるようにする場合は、コンポーネントの URL を構成し、Web Client のコマンドライン・インストーラを実行する必要があります。

次のディレクトリにある `webclient.properties` ファイルを変更してコンポーネントの URL を構成します。

```
$ORACLE_HOME/webclient/classes/oracle/collabsuite/webclient/resources
```

`webclient.properties` には、各 Oracle Collaboration Suite コンポーネントに対するヘルプ・ページの URL、アプリケーションの URL およびプロバイダの URL の 3 つの URL リストが含まれます。インストールするコンポーネントの 3 つの URL リストすべてでトークンをホーム・ページおよびポート番号に置き換えます。

Web Client のコマンドライン・インストーラの実行

Web Client のコマンドライン・インストーラを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
$ORACLE_HOME/webclient/bin/webclient_installer.sh
```

前述のコマンドにより、Oracle Collaboration Suite ホーム・ページの新しいコンポーネントに対するプロバイダおよびポートレットがインストールされます。

Oracle9iAS Portal のスキーマ名、パスワードおよび接続文字列の詳細がわかる場合、次のように Configuration Assistant を起動することもできます。

```
$ORACLE_HOME/webclient/bin/webclient_installer.sh -s schema -p password -c  
connect_string
```

次に各変数の意味を示します。

- ***schema***: Oracle9iAS Portal の Oracle データベース・アカウント。
- ***password***: Oracle9iAS Portal アカウント・パスワード。
- ***connect_string***: Oracle9iAS Portal リポジトリがインストールされているデータベース・インスタンスへの接続文字列で、*host_name:port:SID* のように指定されます。

